

「図書活用授業指導法研究会」

海部地区図書館部会



平成28年2月17日（木）、弥富市立弥生小学校において「図書活用授業指導法研究会」を行いました。

今年度は、同校教諭南川仁美先生による図書活用授業・3年生国語科「ことわざについて調べよう」の授業公開と研究協議会を行いました。

【図書と子どもたちの出会わせ方】

今回の授業では、子どもたちと図書とが会う場面が3回も組み込まれていました。

最初の出会いは、子どもたちの「ことわざの意味を知りたい。」という気持ちを引き出すために、導入で絵本を読み聞かせた場面です。（『馬の耳に念仏』はたこうしろう著 斎藤孝編 ほるぷ出版）たくさんのことわざが次々に出てくるお話を聞きながら、子どもたちはストーリーと絵を頼りにことわざの意味を想像しながら真剣に聞き入っていました。

次は、本に出てきたことわざを調べるための本として『国語辞典』を利用した場面です。ここでは、国語辞典の使い方を確認し、図書を利用して調べたときに大切な「出典」の調べ方や書き方にも触れました。子どもたちは、辞書の最後のページにまで、大切な情報が載っていることに驚き、発行年の違いにも気づいていきます。国語辞典を引きながら、あちこちで「あった！」「載っていない！」などのつぶやきが聞かれました。グループごとにことわざを調べていたのですが、どのグループにも、必ず国語辞典に載っていないことわざを調べるように仕組まれていました。これが、次の図書との出会いにつながっていきます。

3回目は、国語辞典では調べられなかったことわざを調べるための様々な図書との出会いです。公共図書館からの団体貸し出しを利用し、児童数以上の図書を準備されていました。図書の量の多さに、子どもたちからも歓声が上がりました。「これなら調べられる、分かる。」という期待感が膨らみます。そして、国語辞典に載っていなかったことわざを、別の図書を利用して調べることができたときの満足感は大きく、子どもたちが夢中で調べている姿が印象的でした。



このように、授業の中に意図的に図書との出会いを 組み込んでいくことで、図書を活用して調べる有用さや楽しさを実感させていくことができると感じました。

このほかにも、国語辞典の使い方の指導法などについて意見が交わされました。

「本」のもつ様々な力を改めて感じ、授業の中に積極的・意図的に図書を取り入れ、子どもたちの力を伸ばしていきたいという意欲が高まる研究会になりました。